

教育センター通信

ほど 火床の火の心を紡ぐ

第5号（通算第44号）
平成29年9月29日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行

小学校親善陸上大会(1500m 走)
(9月14日、総合グラウンド)



幸せな人生は人の役に立つこと

教育センター指導主事 池田 岳康

現在盛んにメディアに登場している日本理化学工業は国内シェア30%をもつ有名チョコレートの製造、販売会社です。この会社は、従業員の約70%が知的障がい者であり、障がいのある方とそうでない方が共に働き続けるために様々な工夫をしています。この会社の話題を見聞きする度、ある出来事を思い出します。

今から3年前、この会社の会長である大山泰弘氏のお話を直接、聞く機会に恵まれました。その際、大山会長が力説されていた言葉が「幸せな人生は人の役に立つこと」なのです。会長は、その子の能力で役に立つことを見極めること、知的障がい者の理解力に合わせた工程の工夫、役に立つ環境づくりに尽力されました。この時の工夫を会長は「字が読めなくても字が読めたと同じ結果にすればよい。」と語っています。また、「多くの人の役に立った」という気付きを従業員に促すために班長制度を設けました。その結果、製造ラインのほぼ100%を知的障がい者のみで稼働できるようになりました。問題行動もありましたが、「1週間何も起こらなければ、それは本人の成長」と会社の考え方を変えることで、従業員のよさも見えてきたそうです。会長は、工場見学に来た小学生の礼状の一節も紹介してくれました。それは「天の神様はどんな人にも役に立つ才能を与えてくださっているのですね。」というものです。小学生のこの一言で人間の可能性を改めて実感したそうです。

学校には様々な特性、特性による学習上・生活上の困難を抱えている子どもたちがいます。私にとってこの出来事は、子どもの能力の見極めや強みを引き出す努力、子どもが役に立つ環境設定と「ありがとう」と言われる経験を与えること、子どもの可能性を心から信じること等、自分が子どもに向き合う姿勢を考え直す機会となりました。

これは研修会での出来事です。三条市の先生方の研修団体である三条市特別支援教育研究協議会主催の研修会です。先生方は、メディアに取り上げられるよりも早く、大山会長の障がい者雇用の理念に注目し特別支援教育に活かさないかと考えていたのです。この研修会を振り返る度、私は先生方の特別支援教育への熱意とアンテナの高さにも敬服しています。

「特別の教科 道徳」(道徳科)について

「道徳科」は何年度からスタートするのですか？

小学校は、平成 30 年度から、中学校は平成 31 年度からスタートします。小学校は今年度中に指導計画を作成する必要があります。

小学校は、どの出版社の教科書が採択されたのですか？

三南地区は、「教育出版」の教科書が採択されました。

指導要録への記載や評価はどのようになるのですか？

指導要録の形式は、平成 32 年度に全体改訂が行われます。平成 30・31 年度は、現在の形式の総合所見の欄に、道徳科の評価の記載であることが分かるように記述するなどが考えられていますが、現在検討中です。評価については、道徳の授業を行った結果として見られた学習状況や道徳性に係る成長の様子を見るので、授業の中で見られた発言や記述などをもとに一年間の成長を記述します

通知表へはどのように評価を記載するのですか。

通知表への記載は基本的に各学校長の判断となります。校務支援システムの通知表様式の変更については、今後研修等を行い、各校に対して支援を行っていく予定です。

小学校「外国語活動」「外国語科」について

小学校で平成 32 年度から全面実施される新学習指導要領では、ご存じのように 3・4 年生で「外国語活動」、5・6 年生で「外国語科」が新たに導入されます。文部科学省からの通知等を踏まえて、今後の予定等をお知らせします。今後、オーダーメイド訪問を行ったり、英語指導に関わる研修会を開催したりして、教職員の皆様を支援させていただく予定です。

年 度		3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	指導計画作成
平成 29 年度	時数			35 時間		平成 30 年度 1 学期分を作成。
平成 30 年度 (移行期間 1 年目)	時数	15 時間		50 時間		1 学期に 2 学期分、2 学期に 3 学期分を作成。学園で統一する。
	教材	文部科学省が提供する児童用冊子及びデジタル教材		文部科学省が提供する児童用冊子及びデジタル教材 (Hi, friends! を含む)		
平成 31 年度 (移行期間 2 年目)	時数	15 時間 + α ※ 1		50 時間 + α ※ 1		指導計画の修正。 教科書採択後は、教科書に準拠した指導計画を作成。
	教材	文部科学省が提供する児童用冊子及びデジタル教材		文部科学省が提供する児童用冊子及びデジタル教材 (Hi, friends! を含む)		
平成 32 年度 (全面実施)	時数	35 時間		70 時間		
	教材	文部科学省が提供する児童用冊子及びデジタル教材		採択された教科書		

※ 1 スムーズな移行ができるように、学校(学園)判断により時数を増やして実施してもよい。ただし、同一学園内の小学校で時数及び学習内容は揃えて実施する。

「子どもがつくる“弁当の日”」の推進について

小中一貫教育推進課 指導主事 熊倉 隆司

8月21日(月)に、中央公民館において、「子どもがつくる“弁当の日”」講演会を開催しました。「子どもがつくる“弁当の日”」を全国で提唱されている竹下和男先生から、「“弁当の日”が生み出す家族の絆」という演題でお話しいただきました。保護者、教職員等、約300名の方が参加くださいました。勤務時間後の参加、「パーク&ライド」方式での移動、参会者の集約・報告等、開催に当たり、大勢の皆様からご協力をいただきました。ありがとうございました。

さて、竹下先生は、香川県内の小・中学校、行政機関にお勤めになった後、校長として赴任した滝宮小学校で初めて“弁当の日”の取組を始められ、その後勤務された二つの小・中学校でも実践を重ねられました。その竹下先生による三条でのご講演は、5回目です。今回の内容を一部紹介します。

全国を講演で回っていると、一人で家族全員の朝食が作れる小学生は1%未満と感じる。中高生も同じである。これは、作らなくてもよいと思っているからである。人は置かれた環境に適応する。「食事なんて作らなくてよい」という環境を親が作っていないだろうか。

はなちゃんのお母さんは、25歳で乳がんになった。術後に妊娠して、はなちゃんが生まれた。その後、再発。我が子に教えるべきことは日々の暮らしにあると考え、はなちゃんが5歳になった時、料理を教え始めた。「毎日、お父さんのためにごはんを作りなさい」と。2008年11月、お母さんは亡くなった。翌春、はなちゃんは小学校に入学。今は中3。お父さんは自分で朝食を作った方が速いのだが、自分の都合より子どもの将来を優先し、はなちゃんに作らせ続けた。はなちゃんは、当たり前にごはんを作る。周りの子がおはんを作れないことに驚いている。人は置かれた環境に適応する。

人は、3～9歳の味覚が発達する時期にごはんを作ることを身に付けないといけない。子どもが料理に関心をもち始めるのは5歳の頃が最も多い。

人は環境を変える脳を持っている。違うと気が付き、変えようとすれば変えられる。“弁当の日”の取組をすることで、子どもは救われる。“弁当の日”が盛り上がると、子どもの成長により影響が出る。料理をする楽しさ、手際のよさ、食べてもらう喜び、満たされる自己有用感、自信。これらは、次の“弁当の日”の意欲となり、繰り返されることでさらに身に付いていく。頑張った子どもほど友達の長所を見付けられる。ほめられる喜びはほめてあげる楽しさを生む。だから、弁当の“見せっこ”で生まれる「おいしそう」「すごーい」がいつの間にか仲間を喜ばせようとする心を育てていく。

“弁当の日”で素敵な大人になれるというメッセージを子どもに送ってほしい。



三条市では、親子のふれ合いを含む家庭教育力の向上と子どもの生きる力の育成を目指し、平成22年度から「子どもがつくる“弁当の日”」を始めました。平成25年度以降、小学校5年生から中学校3年生までを対象とする今の形になりました。

小中一貫教育推進課では、対象学年の児童生徒が年3回程度“弁当の日”の取組が実施できるよう、各校に期日の設定をお願いしています。そして、各回の目標や活動内容についても、児童生徒の実態に応じて各校で工夫していただいています。竹下先生は「子どもだけでつくる」ことを主張されていますが、小中一貫教育推進課では子どもの力によって「家の人と一緒につくる」部分があってもよいと伝えています。年3回を5年間繰り返したとして、計15回の“弁当の日”があることとなります。初めは家族に教えてもらいながら、一緒につくりながら、徐々に一人で全部作ることができるようになっていければよいと考えています。

各校からいただいた昨年度の報告書を見せていただくと、日時や場の設定等、それぞれ工夫していただいていることによって、子どもたちが興味をもって活動に取り組んでいる様子が伝わってきています。その中で、「友達と弁当を見せ合い、自分も作ってみよう」と作り方を聞いている姿が見られた」という報告がありました。この弁当の“見せっこ”に価値があると竹下先生はお話しされました。作り方を聞かれた子どもは、どんなにうれしく思い、自分に自信をもてたことでしょう。このような弁当の“見せっこ”からも、“弁当の日”の効果がさらに広がっていくことを期待しています。

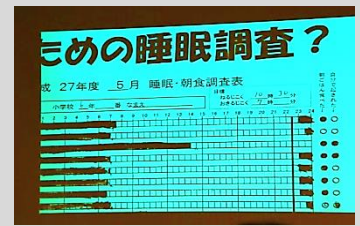
「睡眠教育(眠育)はなぜ必要か」

講師:熊本大学名誉教授

兵庫県立こどもの睡眠と発達医療センター(参与) 三池 輝久 様

「眠育の実践と課題」

講師:NPO 法人里豊夢わかさ理事長 前田 勉 様



子どもたちの生活習慣の乱れが、学習意欲や体力、気力低下の要因の一つとして指摘されています。いろいろなメディアで睡眠が取り上げられ、睡眠の大切さが伝わってきます。生活リズムを形成する上での基本となる睡眠の重要性に着目した「眠育」について研修をしました。(市内小中学校及び保育所(園)等の先生方 124 名) 講話の一部から紹介します。

■ 「問題は生活リズム(睡眠)にあり！」 講師: 三池輝久 様

- ・「小児慢性疲労症候群」の研究により「不登校は病気である」→だからこそ予防できる。早期発見・早期治療が大切。
- ・不登校の最初の自覚症状は、頭痛、腹痛、吐き気、めまい、気分不良などの自律神経症状となって表れる。脳の血流量が低下し勉強が頭に入らない。エネルギーの生産が低下し疲労しやすく、根気、スタミナが著しく低下してくる。精神的にも落ち込んだ状態となる。脳のメンテナンスができなくて、体が鉛のように感じ、寝ていてもエネルギーが出ていく。
- ・不登校になったきっかけ(3 大要因)は、①対人関係②生活リズムの乱れ③勉強が分からない、この 3 点だが、予防の面からも②は大事なポイントである。不登校の原因には「睡眠障害」が大きく関わっている。規則的な生活リズムの形成と十分な夜間の睡眠時間の確保が将来にわたる健康な学校・社会生活を守る基盤となる。



■ 「自分で考え・自分で決め・自分で守る」 講師: 前田 勉 様

- ・ある小学校で特に問題のなかった子どもが、中学進学後 10 人に 1 人が不登校になった。一体何が原因なのか。簡単に中一ギャップとして片付けることはできない。学校と地域との関わりが弱い、核家族が多い、母子・父子家庭が多い、夜の勤め・仕事が不定期などの環境は確かによくなかった。ただ、そこで終わっている。そこから一歩進んでいない。「なぜ、こういう環境の子どもたちが不登校につながるのか」がどこにもない。
- ・「睡眠調査票」で睡眠を「見える化」する。とにかく睡眠の形を見る。見ることによって変わっていくもの。この「睡眠調査票」をつけるだけでも気付きがあり、改善につながっていく。生活リズムを直すことが大事。そして、目標(「寝る時刻」「起きる時刻」)を子どもが自分で考える。幼児期から身に付けることとして、①自分で考える②自分で決める③自分で決めたことは守る、が重要となる。
- ・小、中学生には大きく 4 つの問題(乱れている睡眠リズム)のパターンがある—①夜更かしと補充睡眠②仮眠③不規則な睡眠④中途覚醒。それが表れる子どもたちは不登校の予備軍、素質をもっているととらえていい。文部科学省は「だれが不登校になってもおかしくない」と言っているが、それは不特定多数ではなくて「生活リズムが乱れている子ども」。その子どもたちをきちんと見ていく必要がある。

今後は、モデル地区の瑞穂学園地区で睡眠調査・指導を実施し、12 月に第 2 回眠育研修会(睡眠調査票の演習)を開催する予定です。「眠育」の必要性を共有し、子どもたちに「睡眠」を核とした生活リズムの定着を進めていきたいものです。学校職員、子どもたち、保護者等に「強い意志」が必要だと改めて感じます。

～ 「質疑応答」 から ～



Q: 保育所で子どもたちの睡眠が小さい時期からとても大切なことだということを保護者に保育参観などで話をするが、具体的に先生が就学時の健診時に話をされた中で、保護者が「あっ、そうなのか」と納得されるような話し方のポイントやコツなどがありましたらお願いします。

A: 親自身の生活リズムが乱れている。親のリズムで子どもたちと一緒にしないでくださいとお願いしている。「脅し」をかける。「ラストチャンスですよ」と。幼児期からずっと乱れている子が「入学期を前にして、今まで崩れたリズムがリセットされるような感じになる。もちろん、小学校の先生にはそういう子どもたちの年長組の睡眠リズムの票を絶えず見合せて追跡してもらっている。根本的には変わることは難しいが、表面的にでも変わったのであればそれを絶対入学で崩さないようにと言っている。大事なことは、子どもたちに「寝る」というのはどういうことなのか。寝ている間に子どもたちは成長する。いくら屋ががんばっていい運動をしていい勉強をしても、夜寝なければ全部ゴミです。頭の中をゴミ屋敷にしないでください。しっかり寝ないとゴミは外へ出ません。また、平日はゲームをしない。土日にする。子どもの前で絶対にスマホとかを見ない。親の生活リズムを直すことが子どもにつながっていくのです。